



外国出張報告書

平成 26 年 3 月 13 日

1. 出張国名 ガーナ、ブルキナファソ
2. 出張月 平成 26 年 1～2 月
3. 出張目的 (1) ため池事例調査及び現地基礎調査 : B
(2) 導入する改良かまど及び導入方法の検討及び改良かまどに関する情報収集の継続 : B

4. 成果の概要

(1) 稲作普及促進

今回調査の目的は、前回調査（2013/11/18～12/06）で得た情報を下に、ガーナ国のクマシ地区とタマレ地区での実証調査候補地選定のための現地状況（地形、水田状況など）を調査し、実証調査の基礎資料とすることである。

クマシ地区では 2 調査地を選定し、その現地調査を行った。タマレ地区では、タマレ市近郊の Nguwo 村上流部、Nguwo 村左岸部、Sanga 村及び Nyong doumi 村の 4 地区の調査を行った。その結果、堤体築堤技術改良試験に適した地形、水環境、土地利用を持つ 4 地点を選定できた。次回調査では、この 4 地点について詳細な地形情報、水及び土地権利関係、それぞれの下流の土地利用状況などの詳細調査を行い、最適地を 1 地点来年度早々に決定する予定である。

(2) 地域資源

今回、①FAFASO（改良かまど（FA）普及実施団体）活動の聞き取り調査、②FA 製造業者調査、③Guesna 村（実証調査対象村）の女性達の資金組織調査、④Guesna 村の調理状況調査、⑤Boussé 市（Guesna 村を含む地域の中心市）薪価格調査、⑥Boussé 市の FA 販売状況、⑦薪用樹種調査を行った。

調査の結果、導入 FA として複数鍋対応の金属製 FA Multimarmite、安価なセラミック製 FA の 2 つのタイプを選定した。導入方法は、地域に古くからある制度である Tontine（日本の講に相当）の活用を検討することとした。CDM 方法論の算定に必要な薪用樹種として、6 種を選定した。今後は、これらの調査結果をもとに来年度の活動計画の詳細を検討する予定である。